

大分市の「児童家庭支援センターゆずりは」

弁当を楽しんだ
家族からのお礼
のはがき



年始向けの食材を受け取った家族からの年賀状

ゆずりはキッチン事業は、新型コロナウイルスの感染が拡大していた2020年5月に初めて実施した。センターが支援している特定妊婦が暮らす30世帯が対象。乳児用のミルクや離乳食、おむつと共に、保存が利くコメやふりかけ、レトルト食品、カップ麺や子ども向けの菓子などを届けた。

初めての「おせち」で歓喜の輪

社会福祉法人「大分県福祉会」(大分市)が運営する児童家庭支援センター「ゆずりは」は、生活困窮世帯に食材などを届ける「ゆずりはキッチン」事業に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍に伴う家庭収入の減少が厳しさを増す中、寄り添う事業が家族の心を温かく支えている。

餅やハム、かまぼこなど新年に欠かせない食材を33世帯に配った。購入費はいずれも、支援団体からの寄付金を活用した。

21年度は、赤い羽根共同募金の寄付金を活用して事業を継続。夏休みにはコメや餅、菓子に加えて季節の風物詩であるそめめんを54世帯に配布。12月には年始向け食材を28世帯に配った。

事業を担当する心理士・社会福祉士の井手彩記子さんは「手紙や電話、メールなど多くの声が寄せられ、涙が出るほどうれしかった」と振り返る。文面からは、食卓を囲んで楽しいひとときを過ごした様子が深く伝わってくる。

21年末の配布物には返信用の年賀状を加えた。「ひとり親だったり、生活困窮世帯の状況はさまざま。年賀状を出すこともままならない家庭もある。子どもたちは目に見える世界が全て。お礼のはがきを出すというのを学ぶソーシャルスキルトレーニングにもつなが

食材を提供「ゆずりはキッチン」



乳児向けの物資も支援



ゆずりはキッチン事業を通して、子どもたちの成長を支援
(写真の一部を加工しています)

ている」と井手さんは話す。「初めておせち料理を作りました」というメッセージを見て「やって良かった」と思ったという。

SOSを発している家庭を、24時間365日体制でさまざまな支援とつないでいる「ゆずりは」。20年度の相談件数は延べ2734件に上る。井手さんは「支援を求める『受援力』が弱い家庭もある。寄り添い伴走する相談を続けていきたい」と意気込む。

社会福祉法人 大分県福祉会

住所 〒870-0025 大分県大分市顕徳町1丁目13-17 中央ホールディングスビル2F
TEL (097)574-8525 HP <https://www.oitakenfukushikai.com>
理事長 有松 一郎

運営施設 (事業所)

児童家庭支援センター ゆずりは・児童養護施設 森の木
滝尾保育園・明野しいのみ保育園
母子生活支援施設 別府厚生館
障がい者支援施設 うえの園・相談支援事業所 うえの園
障がい児入所施設 清明あけほの学園



大分県社会福祉事業団の相談支援事業所「ほほえみ」(日出町)



障がい者の家族から寄せられる相談に乗る

「親なきあと」とは一般的に、障がい者が生活する上で、家族などが亡くなったたり高齢になつたりしてサポートを得られなくなったときのことをいう。相談室は県内6カ所の福祉施設に設置。障がい者の家族から寄せられる、「自分がいなくなった後、どうなるのか」「お金の管理はどうしたらいいか」などの相談に乗り、情報を提供している。

同事業団の救護施設「大分県深泉寮」にある「けいせんプラザ」内の「ほほえみ」も、相談室の一つ。「家族が抱える悩みはさまざまだが、先々の不安が大きく、課題や、必要な支援がはつきりしていないことも多い」と話すのは、相談支援担当の安倍克恵さん。悩みを聞き、課題を明確化して、障がい者の生活の基盤づくりを促している。少しでも家族の不安を解消するため、「障がいのある方のライフスタイルを設計する」「一人暮らしの練習を始める」「生活に必要なお金の流れを考える」など、具体的な取り組みをアドバイスしている。

次の支援者のために、障がい者の生活状況などの情報を整理しておくことも重要。行政が配布する記録ノートを活用し、医療情報や日常生活の様子、配慮してほしい行動などを詳しく

「親なきあと」の自立を支援 障がい者の生活相談室を開設

大分県社会福祉事業団は、障がい者の生活を支えている人が、高齢などを理由に支援できなくなった後も、障がい者が自立して生活できるようにサポートする「親なきあと相談室」を開設している。

「親なきあと」とは一般的に、障がい者が生活する上で、家族などが亡くなったたり高齢になつたりしてサポートを得られなくなったときのことをいう。相談室は県内6カ所の福祉施設に設置。障がい者の家族から

寄せられる、「自分がいなくなった後、どうなるのか」「お金の管理はどうしたらいいか」などの相談に乗り、情報を提供している。



相談支援担当の安倍克恵さん 「ほほえみ」が入る「けいせんプラザ」



課目は「支援を必要としている全ての人に情報が届くようにすること」と安倍さん。「一人一人の悩みに向き合い、行政と連携しながら、障がい者を守るネットワークの構築を目指す。「障がいがある方に地域の目が届き、見守りや助け合いができる仕組みをつくりたい」と話している。

記した、引き継ぎ書の作成を勧める。相談室がワンストップ窓口となり、入所施設などの住む場所、身の回りの世話をするヘルパー、成年後見制度などお金の管理の委託先、医療費助成を担当する市町村の各課などへ橋渡しもする。

社会福祉法人 大分県社会福祉事業団

住所 〒870-0907 大分県大分市大津町2丁目1番41号
TEL (097)552-1316 HP <https://www.oitaswo.jp>
理事長 青木 繁

運営施設 (事業所)

大分県深泉寮(救護施設)、相談支援事業所ほほえみ、福祉農園ハイテック(就労継続支援B型、就労移行支援)、共同生活援助事業所けいせん(共同生活援助)、けいせんプラザ(無料低額宿泊事業、日常生活支援住居施設、短期入所)など

